

Berlin Report

October 2023

CONTENTS

* Project 1: ICC - Internationales Congress Centrum

1. ICC - Internationales Congress Centrum

Project Overview

1979年、当時はまだ分断されていた西ベルリンに華々しくオープンした Internationales Congress Centrum（後略ICC）。床面積は2万7900m²、20席から5000席までの80のホールと展示エリアを持つヨーロッパ最大の会議場は、銀色に輝く宇宙船のような外観と、レトロフューチャーなインテリアが印象的だ。しかし年月を経て老朽化が進んだこともあって、2014年から閉館を余儀なくされていた。

改修には膨大なコストがかかるため取り壊しが計画されたこともあるが、2019年にはドアノブに至るまで考え抜かれた全てのインテリアを含めて文化財保護下に入ることが決まった。3つの高速道路に囲まれたジャンクションという特殊な場所に作られているが、その振動や騒音を緩和するための建築上の試みも評価されている。

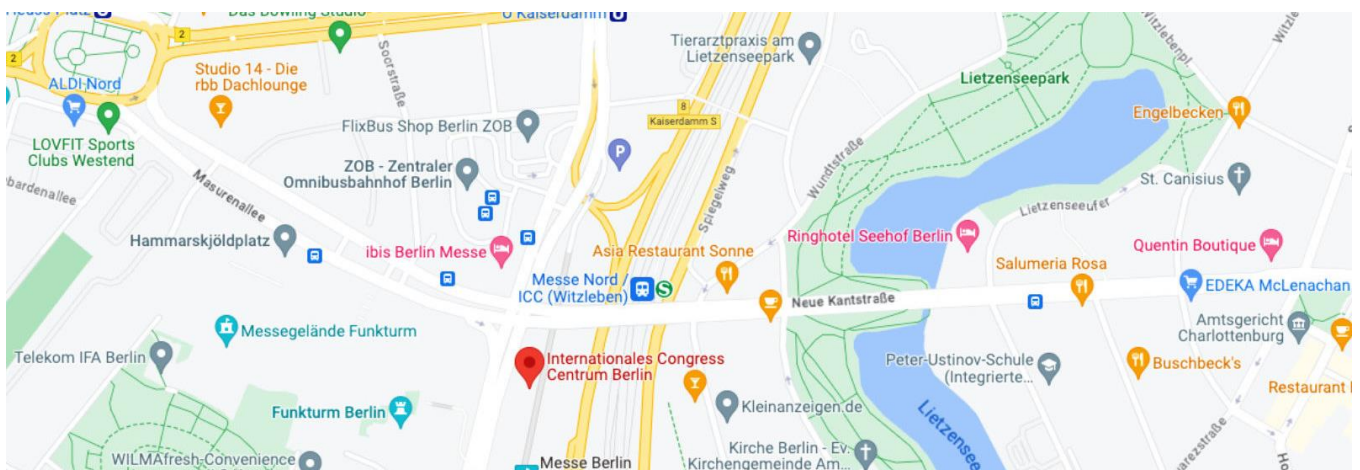
魅力的で巨大な空間を今後どうやって使っていくのか？2年前にはアートパフォーマンスの舞台として使用され、未来への展望を垣間見せたICC。2023年9月には、一般市民に無料公開することで空間の魅力を幅広く知ってもらい、文化施設としての再生への支持を得ようと48時間のオープンデーが企画され、大きな話題を呼んだ。

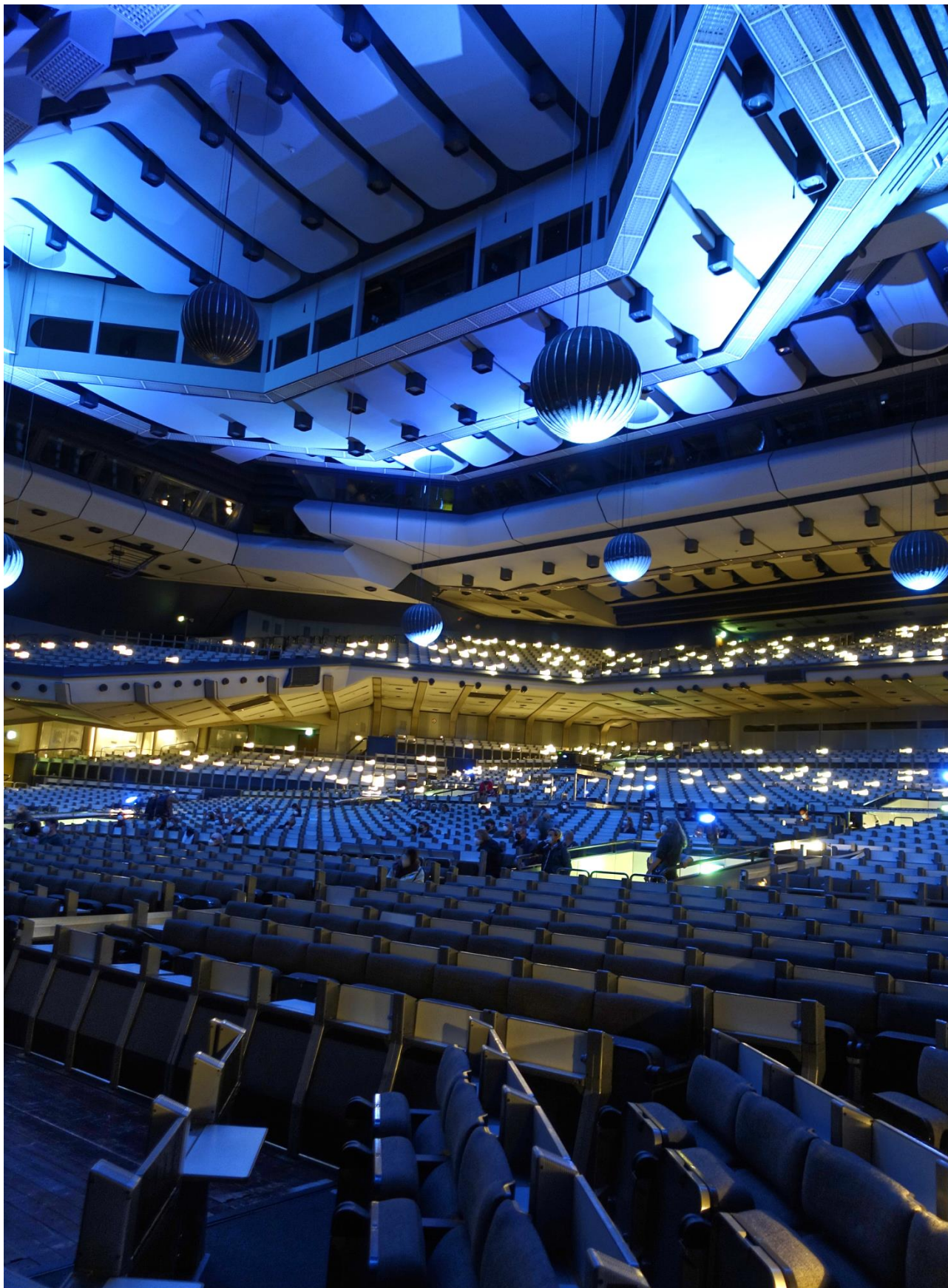
まるで近未来SF映画のセットのようなネオン看板や、巨大なホールはどこにカメラを向けても印象的とあって、お気に入りのファッションに身を包んだインフルエンサーで溢れ、テラスでの夜通しのパーティも大賑わいに。アートの展示空間にぴったり！イベントに使いたい！という声も多く聞かれた。今後この場所を、文化とテクノロジー、アートとデジタル、研究と市民が一体となるコンテンプラリーカルチャーセンターにしたいと考えているICCの目論見は当たったようだ。今後の動向を見守っていきたい。

Project Details

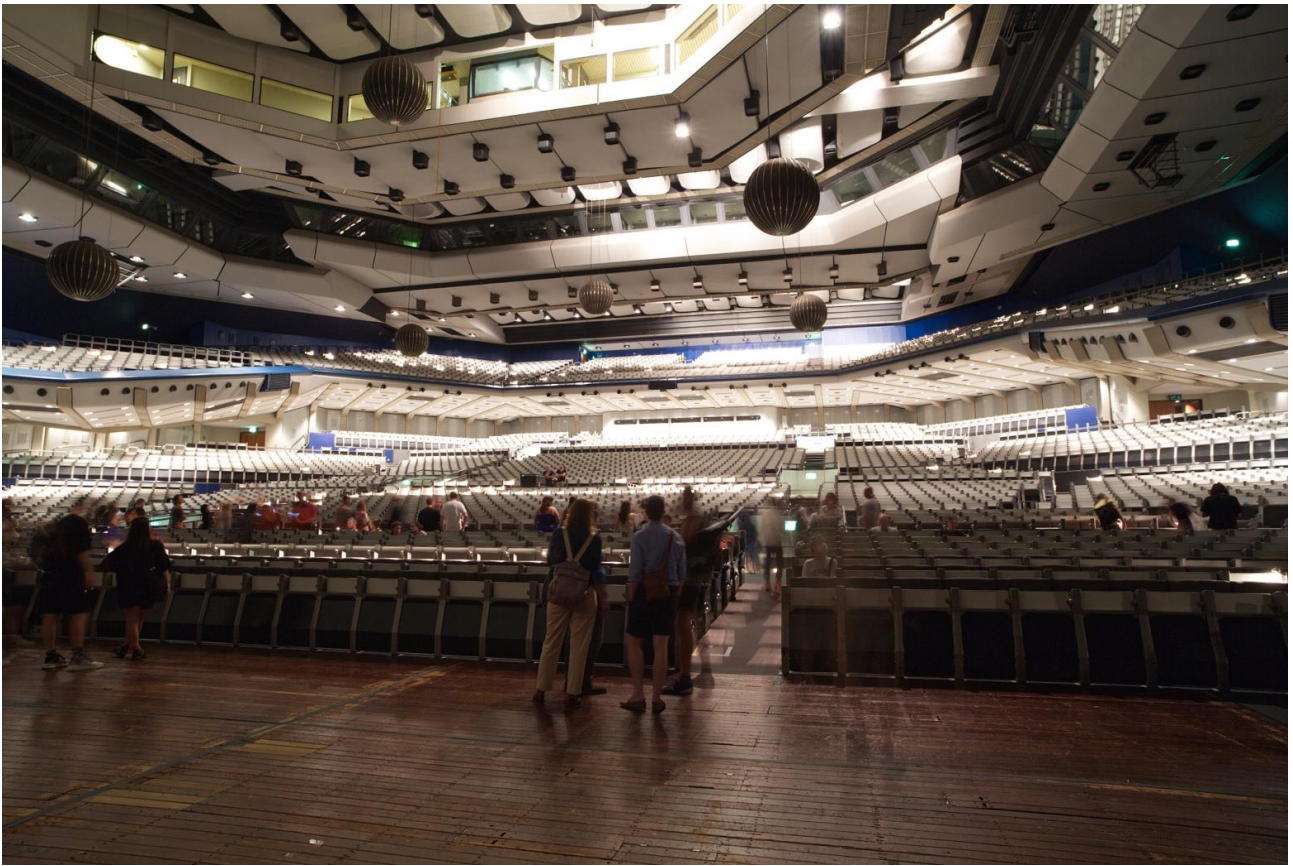
1. Client: Senat von Berlin
2. Type of Business: Congress Center / Art Space?
3. Open Date: 1979, 08/09/2023 – 10/09/2023
4. Location: Messedamm 22, 14055 Berlin
5. Size: 27,900m²
6. Architect: Ralf Schüler, Ursulina Schüler-Witte
7. Website: <https://iccc.berlin/>

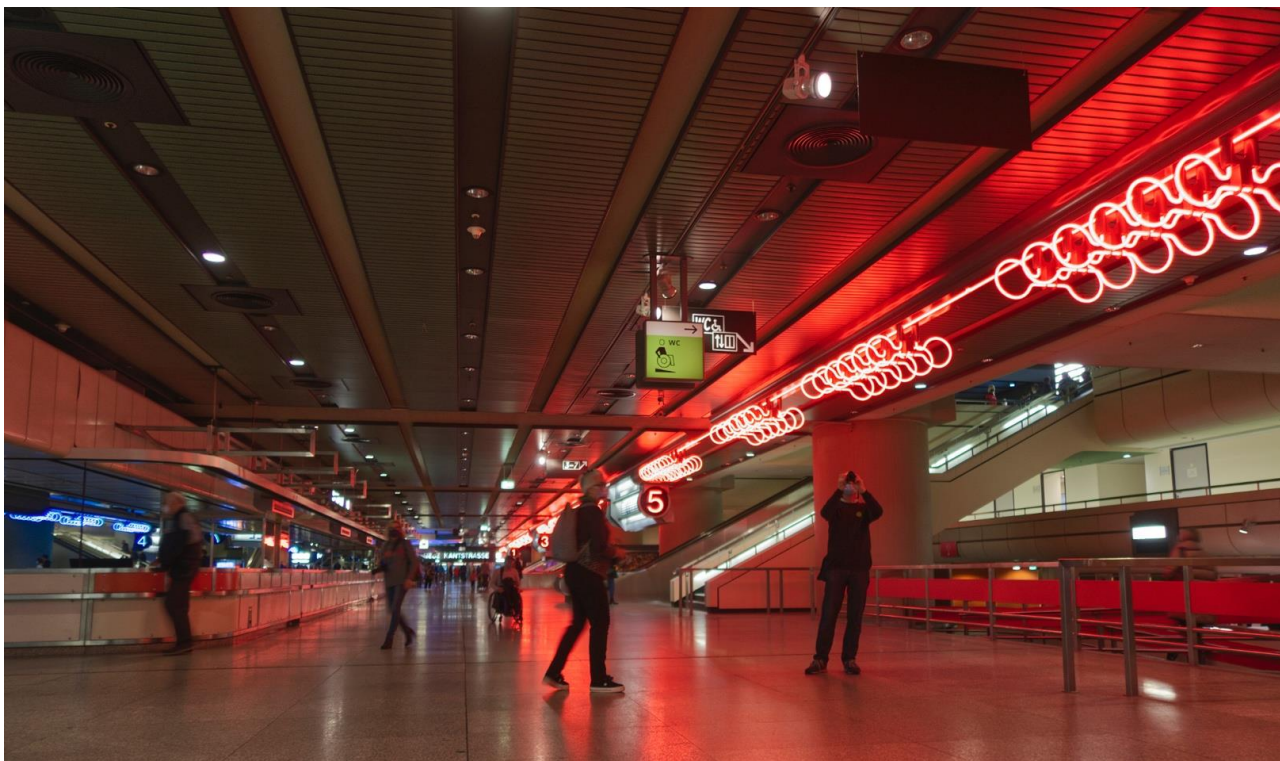
Location





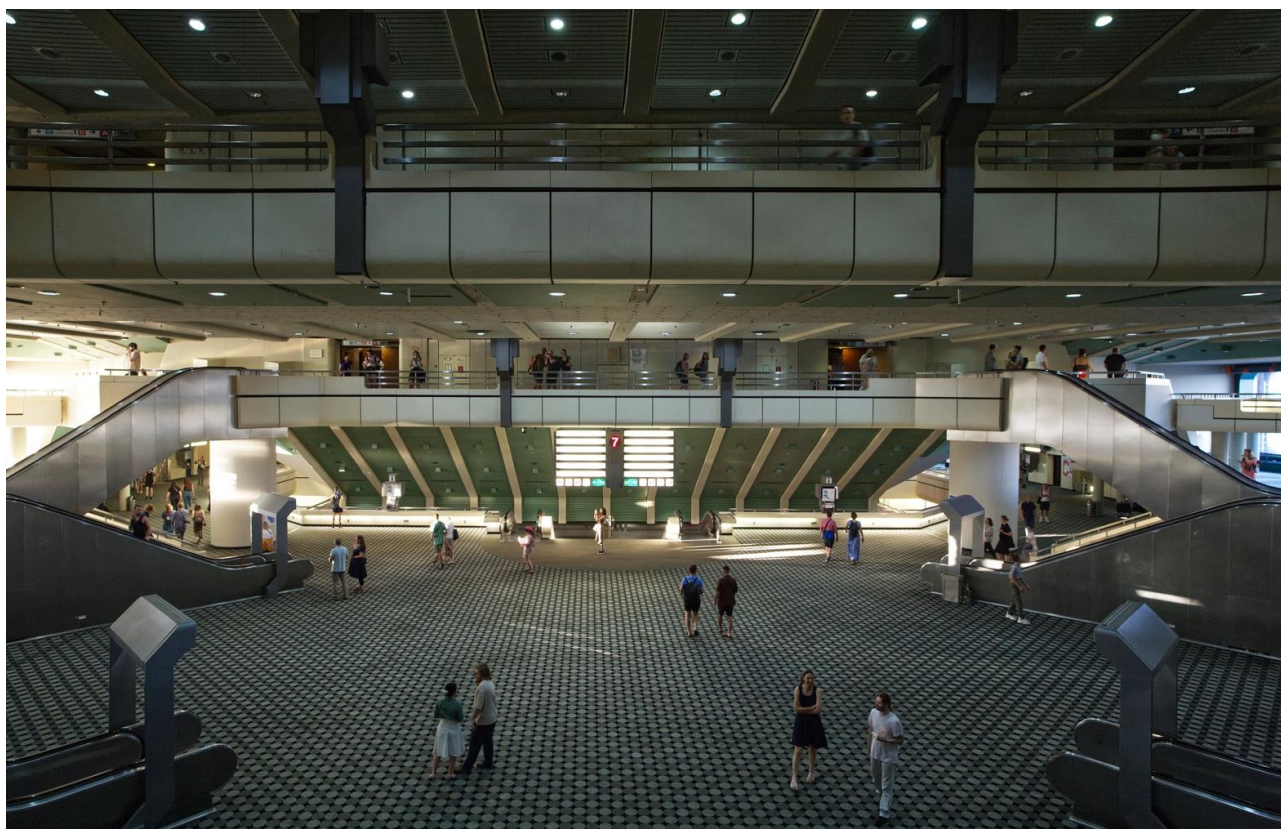
上: 球状の音響システムや天井に広がる照明システムもどこか宇宙船を思わせるホール1。最大 5000 人収容可。多少老朽化しているが、デスクの照明機能も問題なく使用可能。高価なランニングコストがネックとなり、簡単には使えないというのが残念だ。

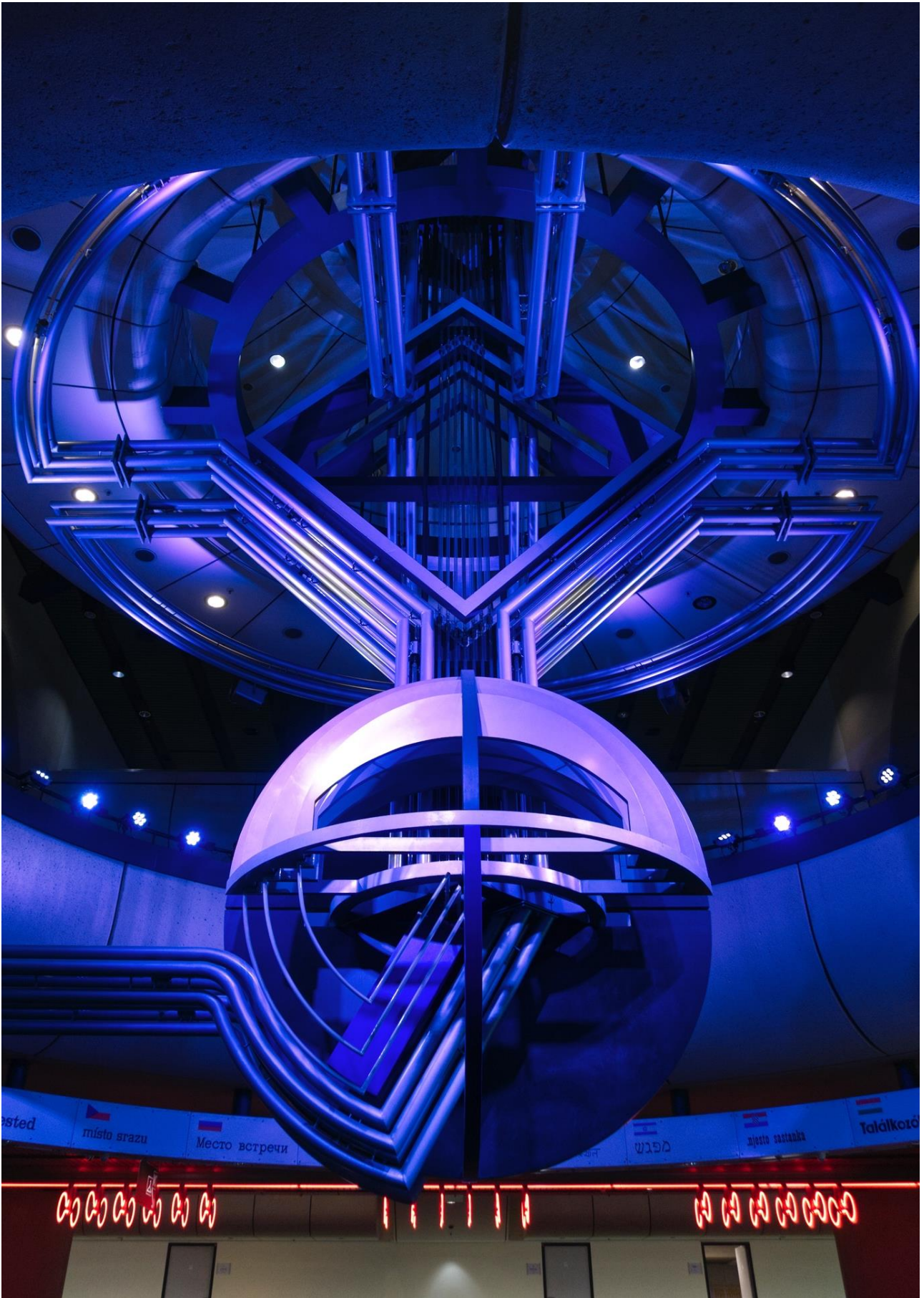




上：1階のエントランス。ブレードランナーなど近未来 SF を思わせる赤や青のネオンが、ホールの位置関係、誘導するサインとなっている。

下：2階の回廊エリア。広く多くの方向に開かれたエリアはアートなどの展示に限らず、色々な利用が考えられそうだ。





上：1階のエントランスホール中央にあるネオン管のオブジェ。一見、アート作品のようだが……



上：ネオン管のオブジェを上階から見下ろしたところ。上下左右に広がっていく空間をネオン管によって誘導したり示唆する作用もあるようだ。

下：宇宙船ブリッジ（Raumschiffbrücke）と呼ばれるホール6。2021年 The Sun Machine Is Coming Down の展示風景。





上：階段やスロープが大胆に上下のフロアを横切る。よく見ると直線と円を使ったシンプルで機能的なデザインだ。